

国際交流部会活動報告（‘13-3）

樺友会／講演会 出席 中 村 洋

1. 日時 平成25年2月16日（土） 12:30～14:30

2. 場所 東京経済大学 5号館 E001教室

3. 講師と演題

(講師) 吉井 博明 東京経済大学コミュニケーション学部教授

(1943年埼玉県浦和市生まれ。1966年東京工業大学理工学部

物理学科卒業。1968年同大学院理工学研究科物理学専攻修士課程

修了、博士課程単位取得満期退学。日本学術振興協会奨励研究員、財団

法人・未来工学研究所主任研究員、立教大学情報学部教授等を経て19

99年4月より現職。中央防災会議専門委員、原子力安全委員会専門委

員ほか歴任。研究テーマは情報社会論、情報行動論、災害情報論)

(演題) 「もし立川断層が動いたら」

4 講演要旨

(1) 大災害とは何か

防災機関（消防、警察、自衛隊、海保、県、市町村）の対応能力を大幅に超える被害の発生が起きた場合で、防災機関ではすぐに対応不可能な救援要請が発生し、被災者自身やボランティアが大きな役割を担うことが期待される。（例えば阪神淡路大震災時の要救出者3.5万人のうち、2.9万人は近隣住民や家族等により救出されている）。

(2) 大災害対応の難しさ

経験がないのでどうしたらいいかわからない（対応行動がプログラム化されていない）。自分が置かれている状況がわからない。自分で対応するとして、必要な資機材の所在、その扱い方がわからない。救出、負傷者対応、消火、避難誘導、避難所開設、勤務先への駆けつけなど、多くのすべきことがあるが、それらの優先順位のつけ方が判断出来ない。どのように情報を集め、分析し、判断するのもわからない。

(3) どのように準備すれば大災害に対応できるのか

① どのような状況になりそうか、災害イメージを持つておく。

② その時に、どのような対応が必要か、可能か、を考えておく。

③ 過去問（過去の実例）を勉強しておく。

④ 模擬試験で鍛える＝図上演習を行う。

- ⑤ 実技訓練で鍛える。
- (4) 立川断層帯の地震による揺れ（国分寺市の地震危険）
- ① 日本列島は地震活動の静穏期から活動期に入っている。東日本大震災以降は活動が劇的に高まっている。
 - ② 南関東直下の浅い地震＝M7.0以上の活断層は5つ。その内、立川断層はM7.3の30年発生確率が0.5～2.0。
 - ③ フィリピン海プレートと北米プレートの境界の地震が起きれば、東京湾北部地震、多摩直下地震、関東地震が発生する。
 - ④ M6クラスの直下型はどこでも起き得る。
 - ⑤ 南関東で発生するM7前後の地震（M6.7～M7.2程度）の30年発生確率は70%、過去の平均発生間隔は23.8年。
 - ⑥ 立川断層帯に地震が起きた場合、国分寺市にとっては最大の被害が発生する。立川断層を地図で見ると、国分寺の南側を廻り、市にとってはかすめる程度とみられる。
 - ⑦ 地震分布で見た場合、M7.3の東京湾北部地震が起きた場合、国分寺市は殆どの地域で震度6弱が想定されるが、立川断層帯地震（M7.4）が起きれば、国分寺市はほとんどが6強、一部では震度7になり、その場合の国分寺被害想定は、建物全壊棟数2,399、出火件数14件、延焼棟数4,637、死者187人、負傷者1,725人、避難者58,443人、帰宅困難者23,791人、エレベーター閉じ込め45人、となる。
 - ⑧ この為、以下3つの対策が重要。
 - a 建物の耐震性（6強に対応できる）の向上
 - b 出火・延焼防止対策の強化
 - c 家具等の固定
- (5) 住宅倒壊と怪我をどう防ぐか
- ① 住宅倒壊の予防と対応
まずは耐震診断を実施する。
 - ② 怪我をしないために過去の怪我人の事例を学んでおく
- (6) 避難所では何が起きるか（東日本大震災の場合）
- ① 直後に起きたこと
（指定）避難所が満員で入れない、遠くて行けない、行く途中が危険でいけない、そのため、非指定避難所が自然発生的に起きた。孤立避難所が発生し、救助まで2日以上かかったところもあった。
 - ② 直接に困ったこと、必要だったこと
家族や知人の安否、地震や津波の被害状況、更には水、食料や生活物資、水道・ガス・電気の復旧見通し、今後の余震の可能性。もの／情報以外のサー

ビスとしては、着替え（衣類）や暖房、食料、飲料水、ミルク、紙おむつなどの介護品、トイレ、医薬品など沢山ある。

③ 時間とともに変化する避難所でのニーズ

食料は直後のビスケットなどの備蓄食料から炊き出しなど温かいもの、調理もの等の要望が出てくる。また衣料・毛布等も直後の毛布・防寒具などから、新品の替え下着、靴下、タオルケット等の要望が出てくる。

(7) まとめ

- ① 国分寺では最低でも震度6弱、出来れば6強以上の揺れに備えてほしい。
- ② 6強以上の揺れに襲われたときに何が起きるか、具体的にイメージしておいてほしい。
- ③ 地震で自宅が倒壊しない為に、まずは耐震診断、建て替えや耐震補強も考えてほしい。それまでは寝室に重い家具などを置かないように。
- ④ 地震で怪我をしないように、家具類の固定と直後の対応がきわめて重要
- ⑤ HUG（模擬体験）で避難所運営のポイントを知っておいてほしい。

以上